

第3回桐生市総合戦略推進委員会 議事録

1. 日 時 平成27年11月16日(月)午後6時30分～午後7時50分まで

2. 場 所 桐生市役所 6階 605会議室

3. 出席者

【委員】	委員長：	桐生市総合計画審議会会長職経験者	宝田 恭之
	委員：	桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
		新田みどり農業協同組合 副組合長	藤生 英喜
		桐生広域森林組合 総括課長	栗原 和人
		桐生織物協同組合 共販部係長	品川 悦子
		群馬県桐生みどり振興局 局長	飯島 泉
		桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事	北風 久子
		桐生信用金庫 常務理事	横倉 浩治
		足利銀行 桐生支店長	松村 貢
		群馬銀行 桐生支店長	横山 勝則
		桐生公共職業安定所 所長	橋本 真実
		桐生タイムス 事業推進室長	小澤 義明
		桐生市区長連絡協議会 第3区長	茂木 新司
		桐生市社会福祉協議会 常務理事	高松 富雄
		きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
		NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
		桐生市PTA連絡協議会 副会長	長 由紀子
		桐生市婦人団体連絡協議会 会員	田中 洋子
		桐生市環境審議会 会長	赤岩 英夫
		2015年の公共交通をつくる会 会長	佐羽 宏之
(欠席者)		桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
		群馬大学理工学部 教授	板橋 英之
		桐生市医師会 理事	太田 裕穂
		桐生青年会議所 理事長	朝倉 康行
【桐生市】		桐生市副市長	鳥井 英雄
(事務局)		桐生市総合政策部企画課長	和佐田 直樹
		桐生市総合政策部企画課人口対策室長	六本木 和敏
		桐生市総合政策部企画課環境都市推進係長	金子 英雄
		桐生市総合政策部企画課人口対策室主任	竹ヶ原 大輔

【傍聴者】 2名
【報道機関】 1社

4. 議 題

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) (仮称) 桐生市人口ビジョン (案) について

前回資料からの修正点

(2) (仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (案) について

総合戦略の取りまとめ (事業の絞り込み)

推進委員、市議会議員、パブリックコメント及び関係団体等からの意見要旨

4 その他

5 閉会

5. 議事の概要

(開始：午後6時30分)

1 開会

〈和佐田企画課長〉

本日は、4名の委員より御欠席の連絡をいただいているが、本日の出席委員数は過半数に達していることから、委員会が成立していることを報告する。

2 あいさつ

〈委員長〉

この委員会は桐生市として大変重要な位置付けであり、皆様の御協力を得ていい案を出していきたいと思っている。また、先日行われた『「地域が元気になる脱温暖化」全国大会 in 桐生』は大成功であり、非常に高く評価された。桐生市にも多くの御協力をいただいた。

その中で、全国の自治体にアンケートを実施した。まだ完全に集計が終わっていないが、総合戦略に各自治体がどのような取組をしているか問題点などを調べたが、一番多いのは時間がない、人手がないことが困っているという結果であった。同様の問題はあるが、その中でまち丸ごと組織化というプロジェクトを打ち出したが、そういうことを反映し他にない良い案を作っていきたい。御協力をよろしく願いたい。

3 議題

委員長が議事を進行。

(1) (仮称) 桐生市人口ビジョン (案) ついて

〈事務局説明〉

事務局より、資料1「(仮称) 桐生市人口ビジョン (案)」について説明。

〈委員長〉

前回から内容がいくつか修正されているが、アンケート結果が追加され、ボリュームもあり様々な分析がなされている。いろいろ検討できそうになっているが、御意見があれば伺いたい。

(意見等無し)

特に御意見等無ければ、この案を了承いただきたいと思います。皆様いかがでしょう。

【委員了承】

(2) (仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

〈事務局説明〉

事務局より、資料2「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略【原案】における事業分類」について説明。

〈委員長〉

ただいま説明いただいた資料2について確認したいと思う。現在、原案にある115事業を「区分1」から「区分6」に分けたということである。

「区分1」は地方創生先行型事業で、既に実施しているものであり、今回の総合戦略のどこに位置付けるかという段階で、やめるということにはならない取組である。

「区分2」は人口減少対策にかかわる本市の主要事業で、この12事業は基本的に国に先駆けて平成26年から取り組んでいる事業で、入れたほうが良いと思われる取組である。

次の「区分3から区分6」が新規拡充事業及び継続事業であるが、「区分3、4」が新規拡充事業を独自性の有無で分け、十分に独自性が感じられる16事業と、他自治体と区別がつかない5事業となっている。

「区分5、6」が継続事業であるが、ここも独自性を十分に有した38事業、あまり感じられないものが37事業となっている。

今回の総合戦略の中に、どういう形で桐生独自の案として取り込んでいくかということになるが、今の話を具体的に示したものが資料2である。基本目標1から基本目標4までであるが、それぞれの基本目標に関する事業が書かれており、施策の方向性、具体的施策、その後に区分と書いてあるが、この区分の数字が今確認した区分に相当する。例えば、「新たなしごと環境の創出」ということであれば、企業誘致の区分は2であり、「区分2」の人口減少対策にかかわる主要事業として位置付け、現在実施されているものということになる。その中で、例として「しごと環境の提供」が「区分6」、これはあまり独自性がないと判断されるというように区分けをしたということである。資料2に関して十分にご理解いただけたらどうか。質問のある方はいるか。

〈委員〉

この委員会で定める事業に対して、大雑把で予算はどのくらいあるのか。

〈事務局〉

国が示している新型交付金は日本全体で 1,080 億円と示されている。その交付金を貰うためには、例えば新規拡充事業の中から国が示している条件にあった取組を実施しないと、新型交付金には該当しない。財源的には、総合戦略を作ることによって新型交付金以外の財源があるかという点、実は現状では無いというのが正直なところである。

新型交付金については、2 分の 1 は自治体負担と決まっており、事業費ベースだと 1,080 億円の倍で 2,160 億円になる。取組が採用されないと、財源はない。

〈委員〉

1,080 億円ということで、1 自治体どのくらいになるのか。

〈事務局〉

1 自治体あたりいくらということではない。あくまで、独自性や先駆性のある取組をする自治体の事業に対し、国が交付金を出すということになっている。

〈委員〉

例えば、1 億円ぐらいではたくさんの事業ができるわけではない。だから集中と選択という話をしているのに、同じような提案が出てきている。

〈事務局〉

既存の事業であっても、人口減少克服など、国の条件に合致する事業であれば、総合戦略に位置付けると国の手引きで示されている。

〈委員〉

それらの既存事業に関しては、先ほどの 1 億円の中には入ってこないということか。

〈委員長〉

そのため今回の委員会では、例えば「区分 6」独自性のないものはやめるという大胆な結論も可能である。この委員会で絞り込んでいくことになる。さらに、その中で 1 億円に対する提案を、地域性のあるものとして手配していく。総合戦略には総合戦略の案があるが、予算獲得のためには各自治体の独自性を出していく。それは、全体のほんのいくつかのものになるという理解でいいと思う。

〈鳥井副市長〉

補足をさせていただきますと、国の予算が 1,080 億円、事業費ベースで 2,160 億円あるが、日本全体でそれだけしかない。しかも半分は都道府県が持っていくのではないかとということもあり、人口 12 万程度の桐生にどのくらい来るのかわからない状況である。その中で、委員さんがおっしゃったように、115 ある事業の中には既に去年もしくは本年に予算化している事業もあり、そういう事業は予算確保がそれほど難しくなくできるだろうということもある。

その他、拡充事業や新規事業に関しては予算がないことには立ち行かないが、雇用を増やしたり若者の定住促進を確実なものにしたりというような事業に関しては、桐生の特性にあった施策とすると、こういうものじゃないのかと、原案に 115 事業掲載している。すでに全国どこでもやっているようなものは継続事業中 37 あるが、こういうものを今回の戦略では外していくというものもある。

予算を考えると、いくつかの事業しかできないというのももともとで、計画期間が 5 年ということもあり、非常に厳選した事業以外はできないであろうと思われる。しかしながら未来を見据え、市としてこういったこと、こういった分野に取り組んでいけば、将来的に人口減少の克服が果たせるのではないかというような、道筋という意味合いを込め、必要な事業については原案のラインナップに加えている。

その中で、優先順位というものを考えていただいて、財源の確保ができたものから順次実施していくということも、ひとつの考えになると思われる。財源が少なければあまり事業ができないのではないかというお話はあるかもしれないが、3 年先、4 年先になるかは別として、桐生市がこういう事業をすることにより、地域課題の克服につながるものについて、優先順位のようなものを付けて取り込んでいただいたほうが、将来的にもこの戦略が活用できる形になるのではないかと思っている。ご検討のほどよろしく願いいたします。

〈委員長〉

今回の予算で、この 115 事業を全て運営するというではない。継続事業というのは、すでに予算化され実施されているもので、その点では難しくはない。その中から今回のビジョンに上手くアピールできるものがあれば、それを引き上げていきたい。さらに新規事業は、今回予算化しなければいけないものなので、その中でどういったものが適しているか、それを判断していただきたい。

「区分 1、2」も総合戦略の中に位置付けて、アピールができれば予算を獲得していきたいということ。今回少しでも多くの予算を獲得するために、特色あるものをアピールするため、桐生らしさのあるものをラインナップしていきたい。大雑把に言えば「区分 1～3」の新規の中からラインアップしていくのがよいのではないか。もちろん継続事業の中でも魅力あるものを入れていくこともできる。桐生市として、ぜひこれは出しておきたいと思う事業があれば御指摘いただきたい。このあと、12 月 11 日に開催する第 4 回推進委員会で、今日の皆様の御意見を元に、最終案に近いものを出していくことになる。

〈委員〉

人口ビジョンの案で P51 にある 4 つの主な方向性のうち、どこを重点的にやるか検討し、大まかな方向を決めてはどうか。

〈委員長〉

いかがでしょう。参考に、この後皆様からいただいた御意見を紹介する。

〈事務局〉

事務局より、資 3 から資料 6 について説明。

・資料 3 「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案に対する意見・提言一覧

【総合戦略推進委員】

- ・資料 4 「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案に対する意見・提言要旨

【市議会議員】

- ・資料 5 「(仮称) 桐生市人口ビジョン原案の骨子に対する意見提出手続の結果（意見要旨）、
（仮称）桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案の骨子に対する意見提出手続の
結果（意見要旨）」

- ・資料 6 「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略全般に対する意見・提言要旨

【関係団体等】

〈委員長〉

前回の委員会の後、推進委員をはじめ、市議会議員、関係団体、パブリックコメントなど多くの御意見が集まったこと自体、非常に喜ばしいことである。今後は4つの基本目標の中で、施策の方向性等、どれを重点的に定めるか、総花的なものは省くかになっていくと思われる。

話が少し違ってくるが、人口ビジョンのアンケート結果を見ると、子どもの数に対する希望というのはもっと多く、2人以上になっている。皆さんそれくらいお子さんがほしいのに、あきらめなければならないのは経済的理由が大きい。そこが安定すればもっと人口は増える。そういったところもこの中にうまく反映できればいいと思っている。

他にも、こういったところを強調するべきだという御意見があれば伺いたい。

〈委員〉

桐生を説明するとき、最初に70%が山間部で、水源をしっかり持っているという話をする。この部分にも目を向けてほしい。今まで力が入っていたかどうかはわからないが、今回「林業の活性化」として新規の取組が二つある。20～30年先を考えて、水の大切さにも目を向けていただいたら、先を考えたことができるのではないかというのが、他所にない地域の資源ではないだろうか。桐生の資源はこれだけではないが、活かせるのであれば活かしていきたい。

〈委員〉

桐生が発展した元になった繭、生糸、織物産業が呼び起こした企業が、高度経済成長の過程を通じて小さい工場は残ったが、大きな工場はみどり市をはじめ他地域に流れ、桐生では立地できなかった。この地域が産業として成熟して、新しい発展を受け入れるスペースがなくなってきた中で、町の再生をどうするか、これまで本町の活性化に力点を置いてきたが、新しい産業をどう獲得していくかという取組が遅れたんだと思う。織物産業で育った桐生の町だが、そこに拘泥しすぎて、新しい時代の波、技術の転換、こういうものが図りにくかった。そういった理由で町の中に若い人を受け入れる仕事なくなり、空洞化していった。昭和50年代から既に人口の流出が始まり、時間の経過と共に加速していった。

その中で、桐生の町のよさ、住みよさ、魅力とは何なのかがまだ不明確である。新しい事業をどう立地するか。この町の中で新しい事業転換をどう進めるかが今後の課題になってくる。この前示された環境先進都市、環境は今の課題に答える大きなテーマである。新技術には課題も大きい可能性があるが、そういうものを桐生市の中でどう育てることができるか、あるいは誘致することができるか。

古い織物産業や繊維産業の転換をその中にどう盛り込んでいくかということが、都市計画と併せて必要になってくるので、都市計画とまちづくりの方向性の連携が必要になる。桐生の方向性を持った戦略を立てなければいけないが、事業は1つ1つ、能力、予算に応じていけばいい。

林業や農業について、バイオマス発電をいくつか見てきたが、ソーラー発電と違って24時間発電できる。一定の発電量を保つことができ、非常に効率的である。環境問題がメインでできた制度だが、現在は買取制度ができてかなり有利に展開している。新里地区では畜産が盛んであるので現実味、可能性共にあると思われる。

赤城山のふもとで何年か後に発電所を作り、桐生の山火事の木材を切り出してチップにして発電していく。そうすると間伐材や不要樹をそこに持って行ってチップにして発電していくことも可能になる。そういうところをいくつか見てきて、それができるといいと思っている。福島の火力発電所が毎時5,000kw発電しているが、1haくらいのところで毎時5,000kwの発電が可能とのことで、立地することは難しくないのではないかと。あまり規模が大きいと山が空っぽになるので、バランスを見ながらやっていかなければならないが、これも桐生に可能性があるのではないかと考えている。

農業は後継者も少なくTPPの問題もあり非常に苦しい状態に追い込まれているが、先進的な農業や園芸農業の取組にはまだ道はあると思う。園芸は可能性として大きく、植物工場やIT産業を取り入れた農業をすることによって、若者に魅力のある産業としていかなければならない。そういう道を桐生市として進めていかなければならない。

資本と労力が集中した農業ができる方とできない方がいるので、地産地消の流れを作りながら、販売と栽培技術の指導など、これは農協でも率先してやっていかなければならない。栽培技術を伝えていく、広げていくことによって小回りのきく園芸というのも可能ではないかと考えている。どこに焦点を絞り可能性を引き出していくかということは、これからの戦略だと思う。

〈委員〉

事業分類の表を見ていると、本当の目標というのは目標4だけではないか。地域が持続可能であるために、そこに人間がいることが必要だということで、人口が減ったら大変だと。人口が増える手段を考えるということは、持続可能な地域づくりの手段を考えるということではないのか。

将来この地域をどのようにしていくかというビジョン、ストーリーがあって、その中で手段と目標がどちらかわからなくなってしまうと、やることはテーマの羅列になってしまう気がする。持続可能な地域づくりをするということが目標であり、そこで行われる手段がちゃんとストーリー的に並んでいないと、物語が成り立たない。いろんなことをやっているだけで、結果がどうなのかというのが良くわからないということになってしまう。そういう意味では、この中で持続可能な地域づくりが一番重要であるのに、その中に書いてある具体的施策は一気に手段になってしまっている。もうちょっとこのところを充実して、例えば環境先進都市の実現が重要だと思う。この辺が一番、目標として地域が持続するテーマだと思う。それをするにはどうすればいいのか、大きいテーマとしてもう少しつめられないか。そうしないと、細かい手段を並べているが、その手段それぞれがどういうストーリーにつながっているのか見えづらく、優先順位も付けづらい。絞り込むためにも、ストーリーは重要ではないか。

〈委員長〉

基本目標 4 が全部を網羅しているようにも思える。それと基本目標 1、2、3 との関連性、さらに施策の方向性、具体的施策との関連性を明確にしなければならない。

〈事務局〉

持続可能なまちづくりというのが具体的施策のところには位置付けられているが、反省点として、それぞれの事業を分類する上で細かくまとめ過ぎて、項目が増えて逆にわかりづらくなっている。再度まとめるときには、施策の方向性、具体的施策を見直すとともに、重点的なもの、桐生市独自のものも併せて整理したい。

〈委員長〉

先ほどの委員の御指摘は非常に重用だと思う。桐生がどういう町を目指しているかわかるような形で、ここに関連性を示していきたい。

〈鳥井副市長〉

人口ビジョンのデータから、桐生の課題となっているのは若い人が大学や就職などで出て行ってしまうということ。そうなってしまうと、子どもを産み育てる年代の人たちが欠落したままの状態が続いて先細りになる。これは自然減という状態とは別に考えても、桐生で生まれた若者が桐生にどれだけ定住するかは非常に大きな問題であり、桐生に帰ってこない理由が、若者が就きたいと思う仕事が桐生市やその周辺でなかなか得られにくいということから、地域資源を活用した魅力ある雇用の創出が課題になる。

それから 2 番目に定住促進。ターゲットとして呼び込みたいのは、これから子どもを産み育てるような世代の人たちの定着。それから子どもを産み育てやすい環境が整っていたら、若い人たちが集まりやすいだろうということで、3 番目の目標がある。

国の示す中で 4 番目の目標に関して言うと、地域連携。これを国は 4 番目の目標として大きく上げている。ひとつの地域だけでは完結しない高度なサービスの提供。これは近隣の自治体と受け持ちの分野を分けて、桐生は例えば教育と医療ですと、隣の町はこれとこれだというように分けて考えていければ、より高度なサービスを提供しながら、そのエリアが維持できるという考え方ならこの 1~4 の組み立てが桐生の場合にはできると思う。その中で基本目標 1、2、3 に入りにくいものとして、都市インフラ、保健・医療・介護などがあるが、これは高齢化率が高いということも含め、地域の特徴に応じた持続可能なまちづくりを進めるために必要なものという視点で 4 番目に入っているが、本来は、「地域間連携」が国が求めていることである。そういう視点でお考えいただけるとありがたい。

〈委員〉

出身は高崎だが、昨年 4 月に初めて桐生に来た。それを前提に聞いていただきたい。

桐生は自然、文化など素晴らしいものがたくさんある。後から来た人は、多分皆桐生に住みたいという気持ちを持つと思う。

こういう機会なのでいろいろ勉強してみたが、行政も住宅取得や教育施策などを実施し、いろいろ

な施策を打っている町という印象がある。そういう意味では本当は暮らしやすい町であるのに、実際は残念ながら人口は減少し、活力が低下しているような状況にある。個々にはいろいろ施策も打ち、自然文化ともいい印象があり、夏祭りなどイベントもたくさんあるのに、一つにまとまらずバラバラになっている。いい形で町がまとまらず、効果が発揮できていないという印象を持っている。町自体の魅力、両毛駅から本町5丁目にかけての中心市街地の活性化が重要。このあたりの街の魅力が上がらないと、桐生全体の魅力というのが伝わらない。特に若い人たちは感じないのではないだろうか。

中心市街地の再開発は、桐生が取り組むべき課題であると思う。高崎は5年10年ですごく活気が出てきたと思う。私の考えではあるが、決して新幹線の有無の問題ではなく、高崎駅西口の再開発に伴って、西口に市役所ができ、市役所まで大きな道を通して、高崎全体の活気が出てきたような感じを受ける。

桐生も、町の中心地が活性化すれば、本来持っている多くの良いものが生きてくるのではないかと。桐生の現状は良いものがありながら、それが生きていないことだと思うので、中心市街地の再開発にぜひ取り組んでいただきたい。ただ再開発は膨大な財源が必要になり、民間の活力を使わなければできないし成功もしない。民間の活力、資金、ノウハウを含めて使うような形に持って行ってほしい。先ほどの話にあった予算の枠の中だけで考えていくと、できることは限られるので、そういう目線での議論もしていただきたいと思う。

〈委員長〉

私も外から来たので同じような印象を受ける。外から来ると、どうして桐生がこの状態なのか疑問だが、意外に桐生の人にはそう思っていない人が多い。大変重要な御指摘であると思う。

前回の委員会するときにも話が出たが、予算1億円くらいだと何もできないかもしれない。おそらく調査費で終わるくらいの予算ではないか。ただ、それを使って将来の流れをつくるための準備金という位置付けで、これで事業を全部やるのではなく、これからの方向性を決めるための予算であるとする。御指摘の再開発は、桁の違う金額であるが、それをやるための準備金としては使えるかもしれない。

〈委員〉

私は逆に生まれたときから桐生にずっと住んでいて、桐生の会社に勤めている。私どもの会社はパートを含めて約500人の規模であるが、そのうち半数以上が市外から採用されて勤めている。今回25名採用したが、そのうち桐生が4人くらいで、他は桐生以外からの採用である。そういったところに目を向けて、桐生の企業にお勤めの方に今の施策、移住定住の支援、空き家対策の支援などを企業にもっと情報発信すべきである。

学生から外に出てそのまま帰らないという人も多いが、逆に勤めている人もその割合でいるとすれば、勤めている人にも桐生に魅力を持ってもらい何人かでも桐生に住んでもらうようにするなど、出て行く人のことだけを考えるのではなく、今いる人の中で桐生に住むことができる人も多いはずで、そういう人向けの対応が必要ではないかと思う。

〈委員〉

私は先ほど話のあった中心商店街の代表としてここに参加しているが、皆さんの意見を聞いてい

て、確かに中心商店街に魅力がないと、その町の魅力というのは外から見て魅力が無いというふうに映るんだろうなと思う。

今までもこういった議論はあり、行政の方も中心商店街は桐生市の顔であるから何とかしなければいけないと言いながらも、20年ぐらいの間、ほとんど何も手を付けずにまわってしまっている。ただ、桐生の商業を考えたときに、本町のある区間に昭和40年前後に高度化資金を使って一つのショッピングモールと見立てて集合ビルを作っており、当時としては先進的で全国でほとんど例のない事業で、昭和40年代から50年代にかけては全国から商業者、商店街関係者が視察に押し寄せた。そういったことができた町なのに、それを放置したままここまで来て、壊すかリノベーションするかというところまで来ている。ここで将来に向かって何か手を打たないと、ゴーストタウンになってしまう。人が住まず、商店もなくなる。ただのシャッターが閉まったゴーストタウンになってしまう。

現状いろいろ人口の問題が出ているが、おそらく昭和20年代、1区から10区までで80,000人ぐらいいた人口が、現在はおそらく27,000人ぐらいに減少している。活気が無くなって当たり前。何も手を打たなければ、さらに減少してしまう。何に集中・選択してやっていったらいいかというのは、確かにその先には中心市街地の活性化、整備というものもあるんですけど、まず手をつけるべきは空き地・空き家、その対策を急ぐべきじゃないかと思う。

〈委員長〉

新しいタイプの商店街がそのままになって、現状では建物がつながっていることによって改修もしにくいという問題点も出てきている。先ほどの中心市街地の再開発、空き家対策、非常に重要なことだと思うが、そういったところにこの地域の自然や資源を活用できればいい案になるのではないかと思われる。

〈委員〉

先ほどあがったお話だが、持続可能なまちづくりというところに大きなものがある。まちなかの人口減少に対してお話があったが、要するに桐生の町は外にスペースが広がらないという状況の中で、町の中をどう移行させていくのか、どう再生させていくのか。その中の一つに商業の問題もあると思うが、決められた環境の中でどう転換を図っていくのか。この手法をしっかりと考えることが、桐生の町の持続可能性を引き出すことに繋がるのかなと思う。

今話があった再開発については、前橋も若干苦労しているが、伊勢崎とか太田は外に広がるスペースを持っていたことから、まちなかにスペースができ再開発ができた。しかし、桐生はそこが目一杯という状況にある。スペースがない中でどのようにできるか。あるものをどう作り変えていくか。長期的なことなので、どういうことができるのか、何が適切なのか、市がしっかりと捉えていくべきかと思う。要は人が住む環境と仕事を作っていくことだと思う。

〈委員〉

先ほど人口の話があったが、私の地区は50年前9,000人ぐらいいたが、現在は2,800人程度まで減少している。多分桐生で一番減っていると思う。先ほどの話で、高崎が再開発で市役所ができて、流れが変わったという話があった。市役所から桐生駅、本町の商店街を含め、特に市役所を新しくするということがこれからの課題であると考えている。市役所は耐震性がなく、地震があっても避難所とし

て逃げてくることができない。この辺で避難するとなると中央中学校になるが、市役所から再生していくのも一つの手かなと思っている。

本町2丁目の矢野新館で白滝姫の展示を行っているが、4月後半から夏の暑い時期も含めて、全国から5,000人が来てくれて、重伝建とあわせて良い情報発信になっている。

いろんな面を踏まえ、中心的なところからもっと開発していくような、そういう視点を持つことが大事かとは思いますが、特に市役所を新しくしてほしいという思いが強い。この問題については、地震があったときに、一番近いのに逃げてこられないという周りの人の意見がすごくあった。

〈鳥井副市長〉

我々も、その点については課題であると考えている。周辺地域との合併の話などが出ている中で、その部分の方向性が定まらないと、大きな投資をして、早まってしまふということにもなりえる。5年10年庁舎をこのままにしておくという状況にはない。新館は別だが、本館は古く、数年のうちには方向性を出して、庁舎について具体的に何とかしなければいけない状況であると認識している。

〈委員〉

ただ、あんまり別の方に行ってしまうと、また中心街がどんどん寂れてしまうんじゃないかという懸念もある。

〈鳥井副市長〉

場所も含めて市民の皆様が一番便利なところ、一箇所しか作れないので、そういうことを踏まえて考えていく必要がある。庁舎というのはおっしゃるとおり、それを核にして新しい町ができたり、町が再生したりという例も全国的にはある。

〈委員長〉

全国的にも例はあり、予算もいろんな取り方がある。企業さんにそこで事業をやっていただくなどもある。

〈鳥井副市長〉

複合的な施設として整備をするというのも、最近の考え方の流れになっている。

〈委員長〉

有益な意見をたくさんいただいている。今までの総合戦略に、皆さんの御意見と市議会議員の方などからいただいた御意見を、何らかの形で盛り込んでいきたいと思っている。今日の御意見をいただいて、全体の流れがわかるような形にして、その中で重点的なところを出していく。それは桐生の独自性を反映したもので、次回の見直しにも反映していけると思う。流れの中に、どうぶら下がっているかというのを示すことができれば、御理解いただけると思う。事業と目標の関連性を踏まえた案にしていきたい。

次回委員会の12月11日には最終原案をまとめていきたい。

4 その他

〈事務局〉

○第4回推進委員会は、12月11日（金）午後6時30分から市役所で開催予定。

5 閉会

〈和佐田企画課長〉

（終了：午後7時50分）